IV-JAPAN

NEWS【N0.5】2005. 3.31 発行

ヴィエンチャン職業訓練

昨年8月に開始されたオンザジョブトレーニングコースは、6ヶ月間の訓練が終了し、2月11日、終業式が行われました。この訓練では、中級コース修了者の中から成績優秀者を選抜して、マネージメントを実践で学ぶために、ブティック（縫製コース）、美容室（理美容コース）、レストラン（調理コース）を訓練生自身で運営しました。訓練生からは、この訓練を通して、初級・中級コースで学んだ技術を更に高めることができたことはもちろん、接客サービスにおいても自信を持つことができたとの声が上がりました。ビエンチャンにある親戚の家に寄宿して訓練を続けてきた訓練生は、「今後は地元に帰って美容室を開きたい」、縫製コースの訓練生は、「このオンザジョブトレーニングで支払われる日当を貯金してきました。終了後はミシンを購入し、自宅でブティックを開業したい」と希望を胸に卒業しました。

この訓練中には、日本人会やインターナショナルスクールが主催するバザーに参加したり、洋菓子講習、日本語と英語の入門コースも開催されました。当会とラオス教育省とで実施したＴＯＴ(Training of trainers：トレーナー養成のための訓練）では、当会訓練生も受講しました。この訓練の修了証書をもって、すでに地元で講師としての依頼を受けている訓練生もいます。8月に終了した中級コースにおいても、熱心にご指導いただいた各講師はじめ、多くの方々のご協力により、その修了者の半数以上が、起業・就職を果たしています。ＪＩＣＡ草の根技術協力事業としての職業訓練は、この3月をもって終了しますが、ビエンチャンでの職業訓練事業は今後も引き続き、無職で教育を受ける機会に恵まれなかった人々が、生活していくための収入を得て、社会で活躍していく手助けをしていきます。

日本人会盆踊り大会のバザーに参加

ケーキ練習（オンザジョブトレーニング）

オンザジョブトレーニング終業式

理美容コースの卒業生が自宅にて開業

全労済チャンパー小学校

04年10月に全労済埼玉県本部創立40周年記念ラオス学校建設支援事業において開始した全労済チャンパー小学校建設が05年1月に終了し、2月2日に小学校の受渡式を実施しました。ドナーである全労済埼玉県本部から佐野理事長、湯川専務、山田総合企画課長の3名が式に出席し、04年8月21日に全労済埼玉県本部が実施した「親子で翻訳絵本作り体験」でラオス語に翻訳した日本の絵本180冊を当小学校に寄贈しました。また、今回の小学校建設は斉藤タソモ小学校と同様に村の青年を対象とした建設技術職業訓練も兼ねて実施し、10人が修了証書を受け取りました。

完成した全労済チャンパー小学校

絵本読み聞かせワークショップ

ラオスに読書を普及することを目的にヴィエンチャン市内の小学校の先生20人を対象に、1月31日～2月4日まで5日間の絵本読み聞かせワークショップ（図書推進活動）を先の全労済埼玉県本部の支援により実施しました。ワークショップの内容は学校の図書室の運営方法（本の登録、図書会員登録等）、紙芝居の読み聞かせ方破れた本の修復方法、人形劇や御伽噺の実演、また生徒を読書に惹きつけるための雰囲気作り（歌や踊り）等、ラオスの図書推進活動に寄与しました。訓練受けた先生はワークショップで学んだことを自分の学校で実践し、子どもたちに読書を奨励しています。

講師による人形劇の実演

破れた本の修復方法を学ぶ先生たち

歌と振り付けの練習

絵本の読み聞かせの実演

シェンクアーン農村開発事業

05年2月にカム郡ナーパイ村、サン村で家畜飼育・果樹栽培・コンポスト訓練を昨年度同様オーストラリア専門家派遣団体（ABV）より家畜飼育専門家、果樹栽培専門家を招聘し実施しました。家畜飼育訓練においては栄養を考えた飼料（トウモロコシ、玄米、大豆）の作り方、去勢方法、また村民の鶏飼育方法は放し飼いであるために、飼料代は節約できるが、その分利益も少なくなることから、専門家は柵の中で鶏を飼育と放し飼いの長所、短所を比較しながら理論的に説明し、村民に柵の中での飼育が結果的に経済的利益が能率的であることを教えました。その後当会から柵を1家庭に支援しモデル世帯として、鶏舎飼育を実践し、4月に実施する家畜銀行で鶏を貸し出します。果樹栽培においては村民が近年悩ませさているペストの駆除対策として、ニコチンスプレイやニンニクスプレイのレシピを教え、村民は大変な関心を寄せていました。確かな成果が得られることを期待します。コンポスト訓練においてはラオスの殆どは有機農業であるため、その生産性の向上に不可欠なコンポストの作り方を実演しました。直ぐに実践に移す村民もいて、結果が楽しみです。また、当会にとって初めて実施する米銀行事業として、米6トンずつをタムサイ村、ナーパイ村、サン村に水と大地と緑の会の助成で供出しました。

飼料の作り方を実演するABV専門家

米倉に米を入れる村民

有機農法について講義するABV専門家

当会が支援した鶏舎と柵

サン村コミュニティーセンター

04年12月にオーストラリア大使館の補助金（Direct AID Program）により完成したカム郡サン村のコミュニティーセンターの受渡式が05年2月18日に行われました。センターは識字教育や子どもや大人のための図書館、村民の話し合い、村の行事、ワークショップ開催場所、また温泉を楽しむ旅行者に織物などを販売する場所として、さまざまな目的に利用され、村の活性化に大きく貢献しています。

トレーナー養成訓練（練馬ライオンズクラブ助成）

05年1月14日～28日までトレーナー養成ワーク ショップを教育省学校制度外教育局開発センター、ヴィエンチャン都教育局と協力してIV- Japanで実施し、当会から職業訓練生8人内女性7人（調理2人、縫製3人、理美容3人）、ヴィエンチャン都の4つの職業訓練所から8人（女性4人）が受講し、トレーナーになるための適切な訓練を受けました。訓練生はワークショップ実施期間中にトレーナーとして訓練生とのコミュニケーションの執り方、指導方法、カリキュラムの作成、訓練の計画の立て方、訓練生のモティベーション及び関心の高め方、訓練の運営方法、訓練生の評価方法等を習いました。訓練の評価として当会からの職業訓練生でなく、他の4つの職業訓練生も参加したことにより、訓練生同士がアイディアや技術を交換し、訓練生のモティベーション及びレヴェルアップに繋がり、自信を得たようです。

調理方法の実演

カットの実演

ミシンの実演

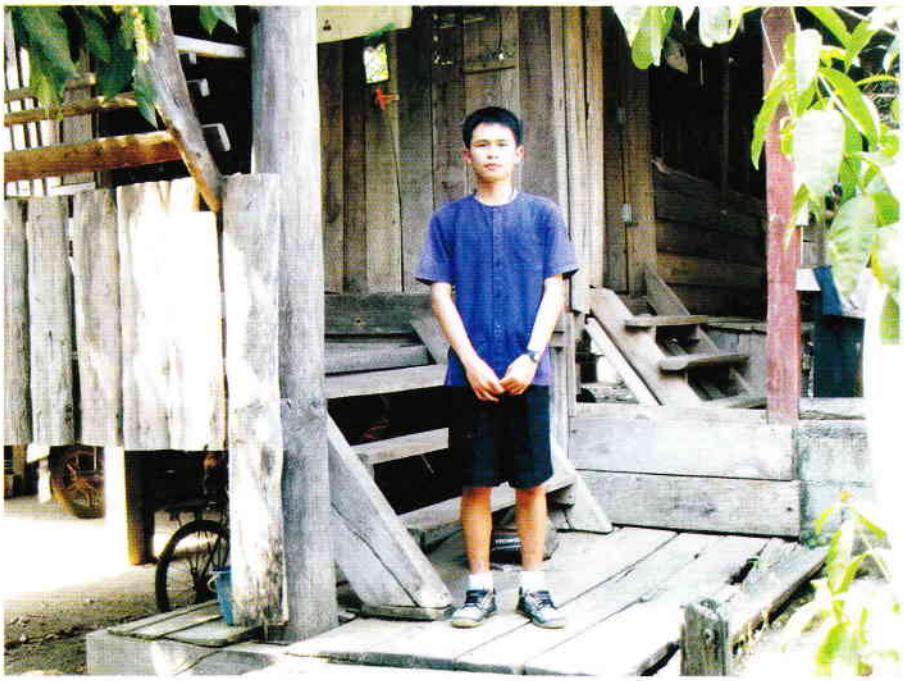
トレーナーとしての理論の講義

ナーケオ小学校井戸建設

1月にヴィエンチャン県ナーケオ村小学校に東京ウィルラインズクラブの支援と村の寄付により井戸が完成しました。ナーケオ村はヴィエンチャン都から車で約1時間の所に位置し、人口888人（154世帯）の村です。ナーケオ小学校には幼稚部45人、小学校5学年107人の合計152人の生徒が在籍しています。井戸の設置により乾季中の飲料水の確保が出来、小学校はもとより村民も飲料水として活用しています。
(写真：完成したポンプ式井戸の前で生徒と冨永)

タイ奨学金生を訪ねて

タイでの奨学金支給はピブン福祉財団とガールガイドタイ連盟を通して経済的に恵まれない小学生から高校生まで100人に昨年は支給しました。今回はピブン福祉財団の奨学金生のニワット君をタイ北部ランプ-ン県に訪ねました。ピブン福祉財団は受刑者やその家族の福祉、社会復帰の手助けをしている団体です。ニワット君の母は麻薬に手をつけたためランプーン女性刑務所で3年の刑に服役しています。ランプーンはチェンマイから車で1時間30分くらいの所です。まず刑務所の所長から、ニワット君の家族についてお聞きしました。父親が最初に麻薬に手を出し服役、兄に続いて母親も同様の罪で刑務所に入っています。もちろん闇で手に入れるのですがアンペタミン1錠が100円から200円程度。母親との面会も許され、なぜ麻薬をはじめたか聞きますと、「うまそうに飲んでいるので、自分もやってみたかった」と。馬鹿なことをした、二度と麻薬には手を出さない。夫は既に若い嫁をもらっているので、今は息子のニワットが学校の成績もいいので、それが生きがいだ。自分はラッキーだ。この刑務所から14人が奨学金を申請したが、息子だけ頂けた。次にさらに1時間半かけてニワット君の通う中等高校学校へ行きました。既に高校3年生になっているニワット君は背も170センチと高く、校長先生が成績も良く、将来が期待できる良い生徒だと紹介してくれた。本人もチェンマイ大学に進学希望で、何を勉強したいかとたずねると、観光学科に行きたい。なぜと訊くと、自宅の近くにリゾートがあり、エコツーリストの観光客を案内するバイトをしているので、とても興味がある。彼は自宅から乗り合い自動車で30分ほどかけて学校に通っているが、交通費が月300バーツ（約900円）、昼食代が1日20バーツ（約60円）掛かるので、土日の週末は農家でとうもろこしや果樹もぎで1日100バーツ（約300円）をもらっている。奨学金で制服や教科書を買った。とても感謝している。自宅を訪ねてもいいかと聞くと案内してくれた（写真）。父親が麻薬を買うために、家の壁板は無残にもはがされて、売られていていた。父親は留守で新しいお母さんがいたが、ラムヤイ（果物）の季節が来るまで仕事がなくぶらぶらしていると。今は精神障害のある兄と4人で暮らしている。あまりにも気の毒な家庭環境の中でもたくましく生きている二ワットに感動したが、日本のカラフルなカレンダーをお土産にあげ、日本の里親もあなたのことを思っているから、頑張ってね、といって辞した



※タイ奨学金100人の内の20人分は毎年タイ国日本人会より提供されています。日本人会婦人部によるチャリティーバザーの収益金をIVタイ財団に配分して頂いています。感謝と共にご報告させて頂きます。

（写真：自宅の前でニワット君）

幸子のラオス便り　No. 11　（2005.1.20）
～ラオスで初めての「津波被災者救援コンサート」開催～

ラオス政府は約1千万円を目標に、各政府機関、地方公共団体を通して、国民に「津波被災者救援金」の寄付を呼びかけている。津波被害の大きかったインドネシア、タイ、スリランカとインドの4カ国にそれぞれ250万円を支援する計画だ。企業からの寄付金や各村々での百円程度の個人の寄付を入れて、現在までに目標額に近づいているとのこと。特に日本の皆様にお伝えしたかったのはラオジャーナリスト協会主催の津波コンサートのこと。アセアン会議が行われたアイテックで、1月15日に百人以上の芸能人、客席3千席を用意し、「つなみ」被災者救援のためのコンサートが開催された。ラオス国立テレビ局がライブで延々4時間放映し、同時に寄付金を電話ホットラインで全国に募った。１枚150円のチケットは千枚しか売れなかったが（私も65枚ほど売ることができた）、寄付金が全国から集まり、約50万円ほどになった。勿論この収益金も政府の津波支援金に回される。コンサートの実際の運営はIVが日本に5回も招聘した「平和のためのラオス青年民族舞踊団」(YAP)の学生たちだ。印刷、チケット配布、当日の受付け、電話ホットラインの対応、会場整理、進行等、彼らの働きは素晴らしかった。現在も電話による寄付金の集金作業に追われている。このコンサートは印刷費、会場費、歌手等関わった全ての会社、人が無償でおこなった。ラオスは今まで、支援される側で、おそらく、これが支援する側にまわった最初のイベントだろう。日ごろ援助慣れした公務員の態度を苦々しく思っていた外国人も、今回は皆感心している。私は高校生だったYAPの団員の成長を目の当たりに見て、とても誇らしく思った。日本招聘は無駄ではなかった。皆様ありがとう。

※メールアドレスの分かる方にはこのニュースを送りましたが、皆様からたくさんの反響を頂きました。ここにニュースレター前号の感想と一緒に紹介させていただきます。

やや高揚した気持ちで書かれた「ラオス便り」を拝読。私もまったく同じ気持ちで嬉しくなりました。ラオスに滞在して観察していると、国内では「富者」が「貧者」に寄付をしているのは良く見かけます。（私の関係しているラオス大学の学部の年間予算は2000円（！）ですから、当初は富裕な家庭の子弟から寄付を集めて学部の事務運営等をしていました。現在は特別授業で財政的に自立しています）。しかし、お書きになっているように、「外国」へ寄付しようという大きな動きは今回が初めてでしょうね。これも会議を成功裏に開いたASEAN議長国という立場も作用したと思います。しかし、外国へ浄財を寄付することを体験すること自体に意義がありますね。また、富永さんが世話してきた若人は本当にボランタリー精神にあふれていることを知っていますが、今回その中心的役割をしたということは、このNGOが地道に成果を挙げている証拠です。この二ュースは、イギリスの新聞にもやや揶揄して載っています。後日、お送ります。

豊田利久

お久しぶりです。幸子のラオス便りをどうもありがとうございます。我が家でも毎日津波のその後をニュースやインターネットでみております。ラオスでも支援の動きが出たことはうれしいですね。

藤島美由紀　サイヤ　キエンペット

幸子さまスマトラ津波ではあまりにもスゴイ被害のため、いろんな反響がでていますね。日本は去年あまりにも国内に災害が多すぎたせいか、民間からの寄付が今ひとつのびていないようですが、その寄付の殆どがユニセフ、日赤に集まっています。まだまだ、NGOに対する信頼、認知が足りないと私たちJANICの力不足を感じます。

友澤享子

心温まる話をありがとうございます。ラオスのボランティア学生にも伝えます。私のラオス訪問は3月になります。お目にかかれれば幸いです。今回は、昨年のボランティアの御礼と、今年の準備という目的です。何か日本から必要なものがあれば、どうぞご指示下さい。

上田義郎

ラオスの津波コンサートは、良い話ですね。それにしても死者数は30万人を超える数となり戦争なんかやっている場合じゃないと思いますね。YAPの皆さんも育ってきて、こうゆうケースを考えると年取った人間の役割は「次代を育てる」に絞られますね。子どもに美田をのこすのも人生でしょうが、ラオスの事業は貴重だと思います。

松本重樹

ラオスの前向きな姿勢を示す素晴らしい二ュースを有難うございました。

森川久代

タネはまいておくものですね

林千根

「ラオス便り」何時も楽しく拝読しています。いつも支援されているラオスの人達のボランティア二ュースに驚き、読みました。このことがきっかけになり、これから少しずつでも外国でなくても国内のなかに対してのボランティアが育つといいですね。人の優しさが解るでしょう。

関谷哲郎・綾子

メールとニュースレターをお送りいただきありがとうございました。いつもながら、富永さんのご活躍ぶりには敬服しております。サオサワンさんには、埼玉YMCAで研修中に「異文化理解講座」でラオスのお話をしていただいたり、不登校の子どもたちを対象とした川越Andanteで自国の料理を作っていただいたり、と大活躍していただきました。

利根川恵子

お元気でしょうね。IV-JAPAN最新号を読みました。いつも皆の活躍が楽しみで愉快です。シエンクアーン県の女性を対象とした家庭料理の調理方法や味付けコースは、とても興味深く拝見しました。家庭料理は、家族の絆を深めるという意味も持っているのではないでしょうか。ヴィエンチャン職業訓練コースも皆頑張っていますね。ベニー・オン氏が訓練センターを視察したことは嬉しいことですね。

吉野貴美子

本年もよろしく御願い致します。本日わずかですが振り込みましたので御願いします。先日のお便り、我が子もいつか松島様のような立派な青年になってもらいたいものと思いつつ拝見しました。余談ですが昨日タイより小包が届きました。サパヤンという十年以上前の奨学生で、その後大学に行きたいという手紙をもらい（その節は富永代表にいろいろとアドバイスをいただきお世話になりました）以降わずかながら送金やメールのやりとりを続けている女性からでした。希望の大学を卒業できず職も転々としたようですが今はパソコン関連の仕事で忙しいとのこと。毎年手製の品を贈ってくれ、一度タイに来いと言ってきます。我々ボランティアも貴会のおかげでいろいろな出会いがあり、心豊かにさせて頂いています。今年は息子も中学になるのでぜひスタディーツアーに参加したいと楽しみにしております。

片山純子

～１年を振り返って～

代表理事　冨永幸子（在ラオス）

2004年度はとにかく１年に4回はＩＶ－ニュースを皆様にお届けし、現地の様子を知っていただきたい思いました。おりしも松島準之介という人材をラオスに得て、彼も試行錯誤しながらニュース作りに良く頑張りました。ラオスで編集し、印刷し、今回は初めて、ラオスから郵送します。ここに最後の号をカラーでお届けできますのもうれしいことです。各号を改めて読みますと、ＩＶの事業はご理解いただけたと思いますが、ラオスについてはあまり紹介できていないように感じます。次号からはラオスの人々の生活や祭り、季節感などもお知らせしたいものです。今年は4月14日から18日までがラオスの正月休みになりました。乾季が終わり、1年で一番暑い季節ですが、5月から雨季に入り、田植が出来ますようにと願いを込めて、お正月は水を掛け合います。今年は既に雨季が始まり、幸先の良い年のようです。

カノック奨学金ドナーの方々

（敬称略：12月25から3月31日：五十音順）

足立毅平、荒井みど里、飯田昌美、石井清子、石井美代子、石川隆二、市川交子、伊東慶子、伊藤睦子、伊藤裕子、今井京子、入沢慶子、岩月優子、上原道子、大久保美子、大野歩・望、大野宏江、大橋國江（2口）、小川昭子、沖野和則（5口）、尾島佐和子、小田切智子、嘉数和子、春日曠、片山純子（2口）、金戸美智子、川合満喜子、加村トク江、賀元澄子、河島一郎、ガールスカウト大阪第73団、菊原享子、黒田芳則、小池佐栄子、木暮秩・道子、小林愛子、小林佳代子、小林文子、込山まち子、近藤利雄（2口）、西条美子、斎藤ふみ子、佐々木孝子、佐藤美津子（4口）、佐藤吉秀、座安きくえ、塩川悠子、嶋美喜子（4口）、謝花恵子（2口）、白川誠之、城間照子、鈴木初子、鈴木ミチ（2口）、外間邦子、高石順子、高仲敬子、高原幸子、武居近子、田中恵子、田中誠吾、田村福代、土屋多賀子、土屋祥二、津本蓉子、徳永可久子、渡久地澄子（3口）、仲村渠寿美子、中村英一、奈良伊世、根橋淑江、野口正晴、橋本多映子、長谷川達也（2口）、早坂健治、原朗子、比嘉エリ子、蛭間愛子、藤井清司、藤田カツノ、松島準之介、松永英子・順平（3口）、三沢純子（2口）、宮里成子、宮下ひとみ、宮村肇（10口）、宮本裕子、武藤広子、宗像邦司、村上淳子（2口）、村本律子（3口）、森典子、森聰、森田豊則、八木道子、雪山渥美（5口）、吉原喜代、饒平名千恵子（2口）、渡辺伊久子、渡三佳、

運営費、寄付金

（12月25日～3月31日まで）

（一万円以下は省略させて頂きます。ご了承下さい。）

栗林聡100.000円、土屋エミ子10.000円、杉浦美佐子10.000円、志田貴子10.000円、沖野和則10.000円、斉藤加代110.000円（井戸費用）、早坂健治10.000円、雪山光恵60.000円、（NTT）ゆいの会20000円、松島冨美20.000円

ご協力ありがとうございます。

お知らせ

(1) 総会とラオス・プロジェクト報告会

場所：埼玉県国際交流協会の予定
（京浜東北線北浦和駅下車、徒歩7分）
＊総会：6月18日（土）
午後1時30分～2時30分
正会員の方はご出席下さい。

＊　ラオス報告会：同日
午後3時～4時30分
どなたでもご参加いただけます。
JICA委託事業
「低所得者のための職業訓練による収入向上プログラム」
報告者：久保彰子
同プロジェクト・マネージャー報告後、
懇親会でラオス桑茶とお菓子を用意しております。
（参加費無料）

(2) 募集

①第8回（通算17回）
ラオスワークキャンプ
05年8月29日～9月9日
参加資格：高校年代～25歳までの青年男女で事前事後研修に参加できる人、費用一人18万円（含航空運賃、宿泊費、食費等）

②第7回ラオス/カンボジア・スタディーツアー
05年5月21日～5月30日

③第8回　ラオス・スタディーツアー
05年11月12日～20日
費用一人23万円の予定

(3) 予告

ラオス音楽と民族舞踊の公演
05年10月28日（金）
第1回公演
午後3時～5時
第2回公演
午後6時30分～8時30分
場所：川口リリヤ催し広場
主催：ラオス文化紹介実行委員会

(4) 愛・地球博

6月13日がラオス・ナショナル・デーです。
ラオス館ではラオス・コーヒーの試飲も出来ますので、愛・地球博にいらしたら是非お寄り下さい。

＊　(1)、(2)、(3) とも詳細はIV日本事務局までお問い合わせ下さい。
又は当会ホームページをご覧下さい。：http://www.cc.rim.or.jp/~iv-japan/

＜サポート会員募集＞

奨学金ドナー及び国際協力費・運営費ドナーを随時募集しています。一人でも多くの皆様のご協力を、宜しくお願い致します。

① 奨学金ドナー
年1口　12.000円以上
② 国際協力費又は運営費ドナー
※個人　年1口　3.000円以上
※団体及び法人　年1口　10.000円以上
申込方法：郵便振替にてご送金願います
口座番号：00140-5-537168　加入者名：カノック奨学金

＜編集後記＞

2月にワークショップ開催のためシェンクアーンに出張に行ってきました。2月のシェンクアーンの気候は清々しく、ヴィエンチャンと比べ大変過しやすかったです。ワークショップ開催中は村民と食事を共にする機会が多く、その度に、ラオスのお酒（ラオ・ラオ）を半強制的に飲まされました。ラオ・ラオはもち米、カッサバ、トウモロコシ、さつまいも等さまざまな種類があります。アルコール度数は約40度もありますが、二日酔いにはならない不思議なお酒です。皆様もラオスに来る機会があれば、是非お試し下さい。

松島

【特定非営利活動法人　国際協力ＮＧＯ・IV-JAPAN】

日本事務所
〒331-0058　埼玉県さいたま市西区飯田426
TEL：048-622-8612 / FAX：048-625-0271
E-mail：iv-japan@cc.rim.or.jp

ラオス事務所
P.O.BOX 7920 VIENTIANE, LAO P.D.R.
TEL/FAX：+856-21-26-1240
E-mail：iv.japan@laotel.com

http://www.cc.rim.or.jp/~iv-japan/